菜の花のように慕われるへぎちゃん

枌（へぎ） 純子

君津市

一年中花があふれる気候温暖な千葉県。県の花・菜の花の咲く頃に袖ケ浦市を訪ねた。枌純子さんは、（袖ケ浦市）長浦駅前のクリニックに勤務し、ちば通研では研究部の労働班で活動している。東京から千葉の実家へ戻った時に、たまたま君津市の広報誌で見かけた社会福祉協議会の手話講習会に参加したのが手話との出会い。「何も知らない私に、地域のろう協の人たちが身振りや黒板を使って根気よく手話を教えてくれました」熱心な勧めで入った手話サークルでは、地域の人たちが一から育ててくれたと枌さんはいう。勤務先・さつき台クリニックの鎌田千華院長は、「菜の花みたいに明るく、責任感があり頼りになります。枌ちゃんがいるからと来院するろう者の患者さんもいます。買い物先のスーパーから戻らないので見にいくと、手話で井戸端会議の最中でした。地域の人気者です」と目を細める。

※グラビアページでは、写真撮影の瞬間だけマスクを外していただきました。

▶さつき台クリニックの皆さん
駅前の大型スーパーに隣接する院長以下全員女性の皮膚科クリニック。スタッフのきめ細かく温かい応対も好評。

▶鎌田院長は、コロナを心配した受診控えが見られるが、病院は細心の注意を払っている。症状が悪化する前に安心して診察を受けて欲しいと呼びかける。

4か月ぶりの学習会！マスク越しの会話に花が咲く

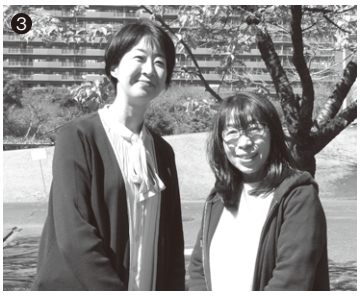
ちば通研「かずさ班」は、袖ケ浦・木更津・君津・富津の４市と鋸南・館山を含むエリアの会員で構成される。毎月１回の定例会は、コロナにより昨年11月から休止していた。今回も、予定の公共施設が緊急事態宣言の延長で使えなくなり、急きょ君津駅前のホテルに会場を移しての開催。悪天候の中駆けつけたメンバーによる近況報告に続き、Zoomによる会議やリモート技術導入への対応などを検討。聞こえない人が自身のJ-TALKやアイ・ドラゴン４のリアルな使用感を紹介する場面もあり、中身の濃い学習会となった。

▶写真❶
「かずさ班」の学習会。
前列左から３人目が班長の鈴木幸子さん（君津市障害福祉課障害者支援係）。枌純子さんの背中を押してくれた手話通訳の師匠でもある。

▶写真❷❸❹
悪天候の中、12名が参加した学習会。
内房線が遅延するほどの荒天にもかかわらず、参加予定者の全員が出席、熱心なトークが繰り広げられた。

ほぼ1年ぶりの役員会。和気あいあいの中、厳しい意見も

ほぼ１年ぶりの千葉支部役員会が、３月14日、日曜日の朝９時半から開催された。緊急事態宣言の延長で公共施設での開催は危ぶまれたが、山積する議題を抱えこの日の開催は必至だった。長引くコロナ禍で、講座や集会、会議などを、密を避けてどう開催していくか、会員数や事業収入の減少にどう対応するか、中長期的な計画をどう見直すべきかなど、時には厳しい意見もあり、白熱の議論が展開されるシーンも。それでもチームワークは抜群。会議が終了すると、地元の美味しい餃子の話で盛り上がり、記念撮影の頃には、飛びきりの笑顔を見せてくれた。コロナ禍は、活動には大きな障壁だが、逆風に立ち向かう結束力の強化にもつながっているようだ。



▶写真❶❷ 日曜日の朝から熱い議論が展開された「千葉支部役員会」

▶写真❸ ちば通研会長の米田市子さんと枌純子さん。

▶写真❹ 会議を離れれば和気あいあい、役員の皆さん。

いつも癒してくれる ユキと茶太郎&千代之介

動物好きの枌さん。20年超に及ぶ手話に関わる日々の中で大切にしてきた癒しの時間があるという。愛犬「ユキ」と愛猫「茶太郎・千代之介」との触れ合いもその一つ。12歳になるユキはお母様の“ポメラニアンの新種”という勘違いコメントが関係者の耳にとまり、テレビ番組出演も果たしている。茶太郎と千代之介は、時々遊びに来ていた野良猫がある朝連れてきた子猫を保護した。もう6歳になる。ケーキ作りと園芸も趣味で、特にケーキ作りは結果がすぐに出るのと、人に喜んでもらえるのが何より嬉しいという。人でも動物でも、出会いは必然と思う。だから大切にしたいという枌さんは、散歩中に出会った猫とも気軽に会話する。猫も楽しそうだった。

写真／文　佐藤 篤

▶写真❶ ポメラニアンのユキとの散歩。
▶写真❷ 茶太郎（右）と千代之介（左）
▶写真❸ 自己流でも味は好評のケーキ作り。
▶写真❹ 時には庭いじりも。
▶写真❺ 撮影で立ち寄った公園で野良猫に話しかける枌さん。